

Book Review



あごひげ先生に聞いてみよう!
口と歯の疑問と悩み

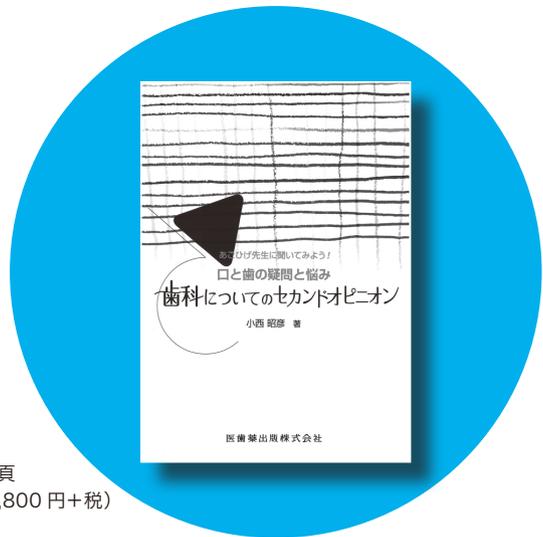
歯科についてのセカンドオピニオン

小西昭彦 著



Reviewer

岸本英之 Hideyuki Kishimoto
(東京都・岸本歯科クリニック)



B6判, 184頁
定価(本体2,800円+税)
医歯薬出版刊

ここ最近、セカンドオピニオンという言葉が広く国民に認知され、歯科界でも多くの患者さんが、そのセカンドオピニオンを求めて来院される。セカンドオピニオンとは本来、患者と主治医の間でインフォームドコンセントのもと最善の治療法を決める際に、それに関する専門的な知識をもった別の医師に意見を求めるものである。しかしながら、セカンドオピニオンを求めて来院される患者さんの多くは主治医から受けた説明に不信感をもって来院される。本書の“はじめに”にも書かれているように、そのほとんどが主治医の治療そのものよりも説明不足、つまり患者さんとのコミュニケーション不足が原因となっているのが現状であろう。そのような折に出版されたのが『歯科についてのセカンドオピニオン』である。

本書の目次に目を通したときにまず興味をひかれたのが、臨床の場において患者さんから本当によく聞かれるフレーズが並んでいたことである。そのなかでも特に興味深いのが、第1章

で書かれている“健康保険で「よい治療」を受けられますか?”である。われわれは保険医である以上は健康保険治療すべてを否定することはできない。しかしながら、理想的な治療すべてが健康保険でできるわけではない。それを患者さんにきちんと理解してもらうには、いつも頭を悩まされる。本書ではその悩ましい問いかけに対して嫌味なく、しかも的確に答えている。ここを読んだ患者さんの多くがきっと“なるほど”と納得するはずである。

また、第2章から続く臨床現場での患者さんとのやり取りのなかには、前述したとおり日常の診療でよく聞かれる質問に対しどのように答えればいいのか、といったヒントがあふれている。“この歯を抜かなくてはいけないのですか?”“何年もちますか?”などはよく聞かれるフレーズであるが、本書を読むといろいろな答えがあるのだと考えさせられる。そして最終章の“一番良い方法、一番良い歯科医院とは…”これは読んでのお楽しみである。

現在、患者さん向けに多くの書籍が出版されており、なかには自院の宣伝のための内容が書かれているものも見られる。しかし、今までにこれほどわかりやすく、しかも患者さんと歯科医師の双方に平等に書かれた歯科手引書はあっただろうか。実際に私の診療室に通院されている患者さんの何人かに読んでいただいたところ、「先生がいつも話していることと似たようなことがたくさん書かれていますね。たいへんわかりやすかったですし、先生のこれまでの説明や治療にもさらに納得できましたよ」と言っていた。つまり、自院の患者さんにも自信をもってお勧めできる内容なのである。全編で共通していることは、決して答えを押しつけているわけではなく断定もしていないことである。臨床とは人間を相手にしているため、これが正解であるというように答えを一つに決めることは難しいからなのである。歯科医療従事者のみならず、ぜひとも患者さんにも読んでほしい一冊である。